

1 新学習指導要領の理念

新学習指導要領では、これまでの学校教育の実践を生かし、子どもたち一人一人に未来社会を切り拓くための資質・能力を確実に育成するため、求められる資質・能力とは何かを社会と共有し連携する「社会に開かれた教育課程」の理念の実現を目指しています。

「社会に開かれた教育課程」の実現

◆ 求められる背景

子どもたちは、社会のつながりの中で学ぶことで、自分の力で人生や社会をよりよくできるという実感をもつことができます。

このことは、変化の激しい社会において、子どもたちが困難を乗り越え、未来に向けて進む希望や力になります。

そのため、これからの学校には、社会と連携・協働した教育活動の充実が求められています。

◆ 実現に向けた3つのポイント

- ①よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有します。
- ②これからの社会を創り出していく子どもたちに必要な資質・能力が何かを明らかにし、それを学校教育において育成します。
- ③地域と連携・協働しながら目指すべき学校教育を実現します。

育成を目指す資質・能力

◆ 資質・能力の3つの柱

新学習指導要領では、育成を目指す資質・能力を3つの柱で整理しています。

- ・「知識及び技能」
- ・「思考力、判断力、表現力等」
- ・「学びに向かう力、人間性等」

子どもたちに生きる力を育むためには、学校教育全体と各教科等の指導を通して、どのような資質・能力の育成を目指すのか明確にします。

下の図のように、児童の発達の段階や特性等を踏まえつつ「資質・能力の3つの柱」をバランスよく育成することが大切です。



◆ 「知識及び技能」の習得

「知識及び技能」は、「生きる力」全体を支える重要な要素です。

【知識】

学習の過程を通して個別の知識を学びながら、新たな知識が既得の知識及び技能と関連付けられ、各教科等で扱う主要な概念を深く理解し、他の学習や生活の場面でも活用できるような確かな知識

【技能】

一定の手順や段階を追っていく過程を通して個別の技能を身に付けながら、新たな技能が既得の技能等と関連付けられ、他の学習や生活の場面でも活用できるような習熟・熟達した技能

新学習指導要領では、知識の理解の質を高めることが重視されています。各教科等の指導に当たっては、深い理解を伴う知識の習得につなげていくため、児童がもつ知識を活用して思考することにより、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、他の学習や生活の場面で活用したりするための学習を充実させることが大切です。

◆ 「思考力、判断力、表現力等」の育成

「思考力、判断力、表現力等」は、「知識及び技能」を活用して課題を解決するために必要な力であり、変化が激しく予測困難な時代の中で重要な要素です。

【思考力】

新たな情報と既存の知識を適切に組み合わせ、それらを活用しながら、問題を解決したり、考えを形成したり、新たな価値を創造したりしていくために必要な力

【判断力】

必要な情報を選択し、解決の方向性や方法を比較・選択し、結論を決定していくために必要な判断や意思決定する力

【表現力】

伝える相手や状況に応じて表現する力

「思考力、判断力、表現力等」を発揮することを通して、深い理解を伴う知識が習得され、それにより更に「思考力、判断力、表現力等」も高まる相互の関係にあります。

◆ 「学びに向かう力、人間性等」の涵養

「学びに向かう力、人間性等」は、他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素です。次のような情意や態度に関わるものが含まれています。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・自己の感情や行動を統制する力や、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度
- ・自分の思考や行動を客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わる力
- ・多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性等

新学習指導要領では、各教科等の学習を通して育まれる資質・能力、学習の基盤となる資質・能力、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力など、あらゆる資質・能力に共通する要素を「資質・能力の3つの柱」で整理しています。

カリキュラム・マネジメント

◆ 3つの側面

「カリキュラム・マネジメント」とは、「社会に開かれた教育課程」の理念の実現に向けて、学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら、組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上を図ることです。

カリキュラム・マネジメントは、次の3つの側面に基づいて取り組むことが大切です。

- ①児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を**教科等横断的な視点**で組み立てていくこと
- ②教育課程の実施状況を評価してその改善を図る**P D C A サイクル**を確立すること
- ③教育課程の実施に**必要な人的又は物的な体制を確保**するとともにその改善を図っていくこと

◆ 効果的な「カリキュラム・マネジメント」

①については、児童の姿や学校及び地域の現状、保護者や地域住民の意向等を把握し、児童に必要な資質・能力を明確に教育課程に位置付けること、また、総合的な学習の時間において、教科等の枠を越えた横断的・総合的な学習を行うことが大切です。

②については、各種調査結果やデータを用いて教育課程の実施状況等を評価し改善を図ること、これらを学校評価と関連付けることが大切です。

③については、人材や予算、時間、情報などの資源を教育の内容と効果的に組み合わせた取組を行うこと、それらの取組の改善を図っていくことが大切です。

全教職員が協働してカリキュラム・マネジメントに参画し、自校の教育課程を全教職員で理解を深め語ることができるまで取り組むことが大切です。